

無形文化遺産国際シンポジウム

— 技と心を受け継ぐ —

International Symposium on ICH Safeguarding
in the Asia-Pacific Region

Transmitting Art and Spirit of ICH

2016年 11月19日 (土) 13:30~17:00

サンスクエア堺 サンスクエアホール

13:30-17:00 19 November 2016

Sun Square Sakai, Osaka, Japan

主催：(独) 国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター、堺市、文化庁

後援：外務省、日本ユネスコ国内委員会

協力：(独) 日本芸術文化振興会国立文楽劇場

Co-organised by :

International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI),
Sakai City, Agency for Cultural Affairs

Cooperating bodies :

Ministry of Foreign Affairs, Japanese National Commission for UNESCO,
Japan Arts Council (National Bunraku Theatre)

次 第

- ◆開会の辞 藤江 陽子 文化庁文化財部長
竹山 修身 堺市長

～ 基 調 講 演 ～

松浦 晃一郎 前ユネスコ事務局長

演 題 「無形文化遺産と私たち」

◆パネルディスカッション

テーマ 「技と心を受け継ぐ」

パネリスト (50音順)

飯島 満	東京文化財研究所無形文化遺産部長
ソクリティー・イム	カンボジア・アンコール地域遺跡整備機構副所長
ハナフィ・ビン・フセイン	マレーシア・マラヤ大学芸術社会科学部准教授
福岡 正太	国立民族学博物館文化資源研究センター准教授

コーディネーター

岩本 渉	アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長
------	----------------------

《休憩 20分》

◆文楽ミニ公演 (人形浄瑠璃文楽は、2008年にユネスコの「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。)

解 説 「文楽のいろは」 豊松 清十郎 氏

公 演 「伊達娘恋緋鹿子～火の見櫓の段」

(出演者)



太夫：豊竹 呂勢太夫 氏



三味線：鶴澤 清志郎 氏



人形：豊松 清十郎 氏

他、人形浄瑠璃文楽座の皆さん
お囃子：望月太明蔵社中

《あらすじ》

八百屋の娘お七は、想い焦がれる元侍の吉三郎が探している主人の剣のありかを突き止めましたが、今夜中に吉三郎にそのことを知らせなければ吉三郎の命はありません。そこでお七は重い罪を覚悟して、町中の木戸を開けるため半鐘を鳴らすのでした。

◆閉会の辞 岩本 渉 アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長

出演者プロフィール

＝基調講演＝

講師



松浦 晃一郎 前ユネスコ事務局長

1959年外務省入省。1961年米国ハヴァフォード大学経済学部卒業後、経済協力局長、北米局長、外務審議官（先進国サミットのシェルパ兼任）などを歴任。駐仏大使、世界遺産委員会議長を経て、1999年から2009年まで第8代ユネスコ事務局長。2003年の「無形文化遺産の保護に関する条約」の策定に尽力し、文化および文化遺産保全に関する6条約体制を樹立。2013年からアジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事。

＝パネルディスカッション＝

パネリスト (50音順)



飯島 満 東京文化財研究所無形文化遺産部長

2004年より東京文化財研究所に所属。専門は日本近世芸能。無形文化遺産の継承に資する実演記録の作成および整理を実施。



ソクリティイ・イム カンボジア・アンコール地域遺跡整備機構副所長

2005年よりアンコール地域遺跡整備機構に所属。民族考古学を専門に、カンボジアの世界遺産アンコールワットとその周辺地域の調査。アンコールの有形・無形文化遺産の関係や活用について研究。



ハナフィ・ビン・フセイン マレーシア・マラヤ大学芸術社会科学部准教授

1989年よりマヤラ大学に所属。文化人類学を専門に、マレーシアの祭祀や伝統芸能について研究。特にサバ州のサマ人（海民）の海上生活と彼らの伝統芸能の伝承・継承について調査。



福岡 正太 国立民族学博物館文化資源研究センター准教授

民族音楽学を専攻。東南アジア、特にインドネシアの伝統音楽について研究。近年は鹿児島県硫黄島などで、無形文化遺産の伝承における映像記録の役割について調査を行っている。

コーディネーター



岩本 涉 アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長

1977年文部省入省。2001年から2009年ユネスコ本部において教育局中等・職業技術教育部長、ユネスコ本部人文社会科学局社会科学・政策研究部長を歴任。2016年からアジア太平洋無形文化遺産研究センター所長。

独立行政法人国立文化財機構

アジア太平洋無形文化遺産研究センター (IRCI)



ユネスコ総会で承認を受け、日本政府とユネスコ間の協定に基づき設立されたユネスコカテゴリ-2センター（ユネスコと協力してプログラムを実行する機関）であるIRCIが、国立文化財機構の一組織として2011年10月1日に堺市博物館内に開所してから、5周年を迎えました。

IRCIはアジア太平洋地域における無形文化遺産保護の研究の充実を使命とする国際拠点として活動しています。無形文化遺産（口承表現、芸能、祭礼など）は人類の貴重な宝であり、その保護や継承には国際的な協力が必要です。何世代にもわたり守られてきた多くの無形文化遺産は、生活様式の変容、過疎化などによって、消滅の危機に瀕しています。私たち一人ひとりが無形文化遺産の継承者として持続可能な社会を築いていくことを目指し、IRCIは国内外の大学、研究機関、博物館、地方自治体、コミュニティ関係者、政府および非政府組織などと協力し、無形文化遺産保護の促進・活性化につとめています。



無形文化遺産の保護研究に関する国際会議（キルギス共和国）



無形文化遺産保護条約採択10周年記念シンポジウム（大阪府堺市）

歴史文化都市・堺 ～堺の豊かな文化～

上神谷（にわだに）のこおどり

堺市南区鉢ヶ峯寺に伝承されるもので、もとは雨乞踊でしたが、現在は片蔵の桜井神社の秋祭のおりに行われています。鬼神の背負うヒメコと呼ぶ神籬（ひもろぎ）を門口にさして魔除けにするとという民俗が残っています。

（1972年：国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択、1993年：大阪府指定無形民俗文化財）



堺緞通（さかいだんつう）

江戸時代後期から近代にかけて盛んに生産された手織り敷物で、国内では鍋島（佐賀県）、赤穂（兵庫県）と堺が緞通の三大産地とされています。堺緞通は明治時代中期には海外へも盛んに輸出されました。現在は堺式手織緞通技術保存協会によって技術の伝承が行われています。

（2006年：大阪府指定無形民俗文化財）



百舌鳥古墳群

世界文化遺産をめざしている 百舌鳥・古市古墳群

堺市にある百舌鳥古墳群と羽曳野市・藤井寺市にある古市古墳群は、世界最大級の墳墓である仁徳天皇陵古墳や応神天皇陵古墳などの巨大前方後円墳を含む我が国を代表する古墳群であり、1600年もの間、人々の暮らしとともに数々の危機を乗り越え、今、私たちに受け継がれています。

（2010年11月：日本の世界遺産暫定一覧表に記載）